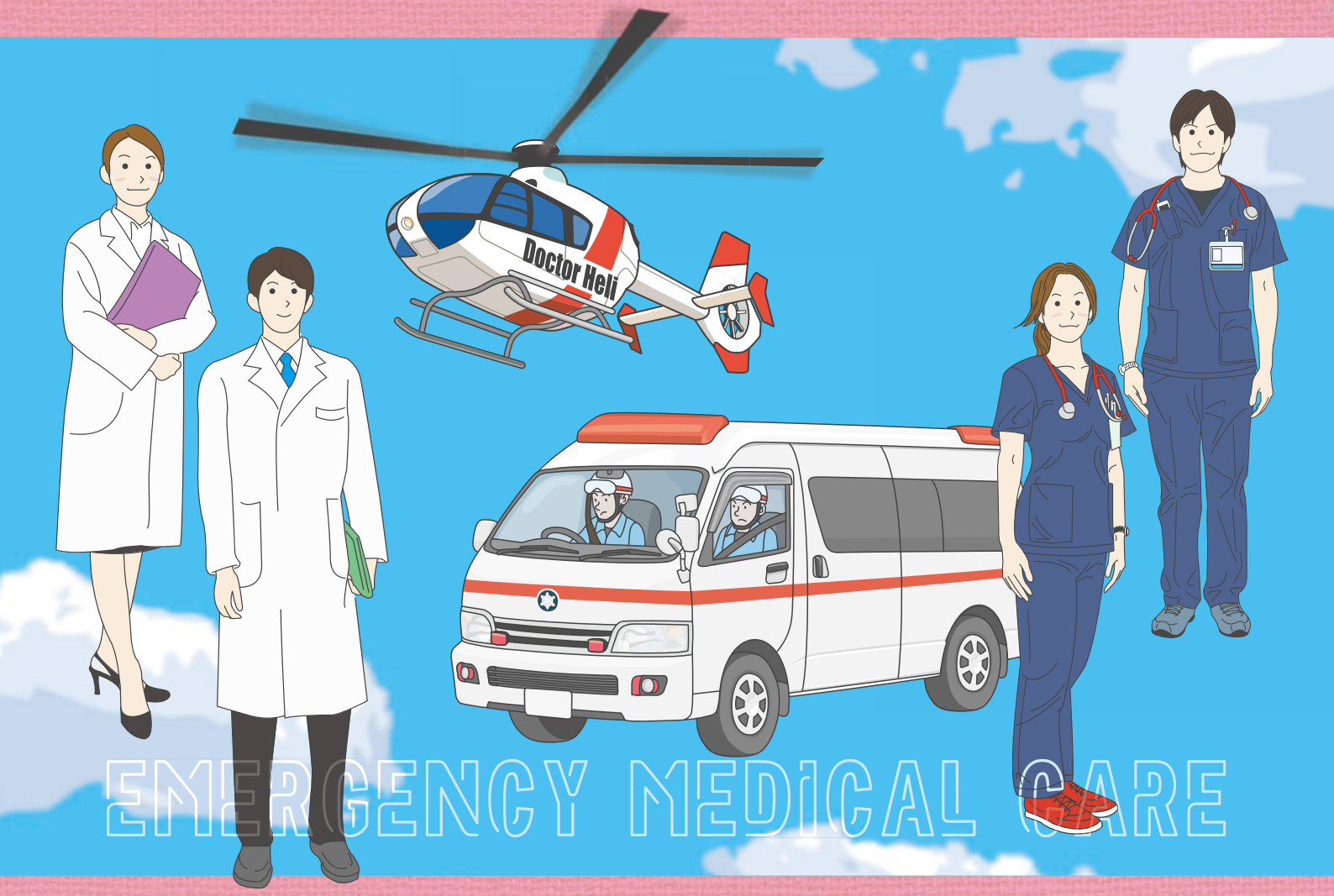
島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

SHIROUSAGI

2020
60
April.1

TAKE FREE
ご自由にお持ち帰りください



Contents

特集 Special issue 『救命救急センター・高度外傷センターのとりくみ』

インタビュー
●救急医学講座 教授・救命救急センター 副センター長・・・・・・・・・・・ 岩下　義明
●Acute Care Surgery 講座 教授・救命救急センター 高度外傷センター センター長・・・ 渡部　広明

急に体調が悪くなった!けがをしてしまった!そんなとき…自分で救急を受診するには?
看護師長 板倉　千栄　　副看護師長 小室　淳・谷﨑　明子・神谷　千絵

＊プロジェクトM
＊私のここだけの話
＊留学生の国自慢
＊ニュース&トピックス
＊イベントなどのお知らせ
＊家庭における新型コロナウイルス感染症対策
＊しまだい病院のキラ☆めき!

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

救急の現場から地域、世界につながる

救命救急センター　副センター長　教授　岩下（いわした）　義明（よしあき）

―岩下先生は島根大学医学部の卒業生ということですが、どんな学生でしたか。

それなりに勉強もし、軟式テニス部に所属し、普通に過ごしていました。（笑）他には、学生時代に、ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support：二次救急救命）の勉強会のサークルを立ち上げ、日本全国から学生を集めて勉強会を開催しました。また、一年休学してイギリスに留学、臨床実習も海外に行きました。私は埼玉県出身で、のんびりした土地柄だったので、親から、いろいろなところに行って広い世界を見るようにと、いつも言われていました。実際に海外で勉強して、見識も広がり、多くの人との出会いがありました。これは今でも役に立っています。

―学生時代から救急に関心をお持ちでしたか。

子どもの頃から常に、「目の前で困っている人を助けたい」という気持ちがありました。国際医療・災害医療にも以前から興味があり、中学生のときに阪神・淡路大震災の映像を見て、医師になろうと思いました。今も、「人を助けたい」という気持ちはまったく変わっていません。

―実際の救急の現場とはどのようなものですか。

救急医療というと、どんなイメージを持っていらっしゃいますか。「命に関わる瀕死の重体の人が来て、判断力が求められる」とか、「迅速な処置が求められる」とか、「判断を間違うと命に関わる」などが大半のイメージだと思います。しかし、それは一つの側面でしかなく、救急外来に来られる圧倒的多くは、風邪やインフルエンザの患者さんや、包丁で指先を切ってしまった、というような軽症患者さんです。

一方で、救急で一命をとりとめたとしても、ICUでの管理が数か月にわたり、退院後、他の病院で半年間のリハビリを経て、ようやく歩けるようになる、というケースもあります。ER（救急救命室）で亡くなる方は少なく、むしろICU（集中治療室）の管理によって左右されるということがあります。「どこからどこまでを救急医療と呼ぶのか？」という、そのくらい幅広い分野です。

―救急の現場で大切だと思われることはなんですか。

救急外来というのは、社会問題の縮図とも言われ、社会のひずみが一番見えやすいところです。虐待やDVや貧困、老老介護など様々な問題を抱えた方が来られます。患者さんの表面上の身体的な訴えだけにとらわれるのではなく、根本的な原因にも思いをめぐらせないといけないと学生にも教えています。例えば、「夜眠れない」という訴えに、睡眠薬を出すだけでは解決しません。「高齢者で、家族と離れて暮らしていて不安だから眠れない」などの根本的な原因にきちんと向き合い、アプローチしていかないと、本当の解決にならないと思います。

現在は、一次、二次救急の軽症患者さんは救急センターが、重症患者さんは高度外傷センターが担当をしています。軽症患者さんだからといって簡単というわけではありません。病気の初期段階だと、その後良くなるのか、重症になるか見極めが難しいことがあります。症状をしっかりと見極めることが重要です。

―今後の展望は。

人員を増やし、重症患者さんの診療や集中治療室の業務もしていきたいです。私は「急性呼吸不全」が専門ですので、島根県内の患者さんを集約して診ていくことも考えています。また、総合診療科とオーバーラップする分野ですので、総合的な診療を強化し、地域の病院との人材交流や遠隔地の診療支援もしていきたいですね。

高度外傷センターの役割とさらなる可能性

救命救急センター
高度外傷センター　センター長　教授　渡部（わたなべ）　広明（ひろあき）

―島大病院にはなぜ「救命救急センター」と「高度外傷センター」があるのですか。

一般的な病院の救急センターは「ER型救急」で、歩いて来る人から、救急車で運ばれてくる患者さんまで幅広く受け入れています。「ER型救急」では、来られた患者さんを各専門科に割り振っていくのですが、救急車で運ばれてくる人は、それでは間に合いません。重症患者では、医師が２人以上必要な場合があります。さらに、治療に何時間もかかる場合は、他の救急患者さんの診察に遅れが出てしまいます。

そこで、島大病院では救急部門を、救急疾患（一次・二次救急）を扱う「救命救急センター」と、命に関わるような三次救急と外傷を扱う「高度外傷センター」に分けています。それぞれが専門性の高い救急医療を提供することで、救命率の向上にもつながっています。

―島根大学病院ではさらにドクターカーを導入していますね。

救急車が病院に到着するまでの数分の違いで助からない命があります。心筋梗塞や脳卒中は、検査やカテーテル治療などが必要なので、病院内でなければ治療ができませんが、外傷の場合は、ドクターカーで医師が現場に出向き、診察をして止血し、瞬時に助けることも可能です。これを「ドクターデリバリー（早期医療介入）」といいます。ドクターカーでの病院前診療は、外傷患者さんに非常に有効です。ドクターヘリや防災ヘリで運ばれる患者さんもいます。ドクヘリは法律があり、夜は飛べませんので、夜間の長距離搬送では防災ヘリが患者搬送します。実は、防災ヘリが夜間患者搬送できるのは、全国で島根県だけなんですよ。

―どのような体制で24時間対応されていますか。

外傷センターの医師は現在11人で、医師３～４人が２交代制で常駐しています。救命センターには5人の医師がいます。看護師は救命センターと業務を兼務しており、放射線技師や臨床工学技師も含めたチーム医療を行っています。瀕死の外傷患者さんが来る場合は、「トラウマ・コード」（関係部署にメールを配信し、患者さんが来る前に外傷センターに集まり治療準備をする）をしいて、常に万全の臨戦態勢をとっています。

高校生の医療体験の指導の様子

救急は、幅広い知識と、不確定要素の中で瞬時に最善の選択を行うスキルが要求されます。目的地にたどりつくまで、分かれ道がたくさんあり、決定を間違うと、そこは崖（死）です。そのような数々の選択、判断を確実に行っていくのが、救急医療です。

―これからの展望は。

当院の高度外傷センターには「ハイブリッドER」という最先端の救急設備がありますので、標準的な治療となるJATEC（日本外傷学会）の**外傷初期診療ガイドライン**を超越した、さらに「高度で安全な治療」を追求し、展開していきたいと思います。

急に体調が悪くなった！けがをしてしまった！

そんなとき… 自分で救急を受診するには？まずお電話を！

☎0853-20-2152

C病棟の北側に救命救急センター入口があります。

救命救急センターに御用の方は、入って右手の「時間外受付」に申し出るか、インターフォンを押してください。職員が参ります。様子をお尋ねし、時間外待合（中待合）へご案内します。

時間外待合（中待合）

ここで看護師が問診をしたり、血圧を計ったりします。持病があるかどうか、お薬手帳があるかどうかなどをお尋ねします。体調が悪い方は観察室で横になってお待ちいただきます。順番がきましたら、中からお呼びします。

診察室

お子さんや女性が診察される場合は、看護師がお手伝いします。診察室には、いろいろな診察道具があり、様々な症状の患者さんを診ることができます。

お薬を処方されたら、廊下を進んで、右側にある「お薬渡し口」で薬を受け取ってください。青袋を時間外受付窓口に提出して、精算後お帰りください。どうぞお大事に。

救命救急センターの看護師は、常時3人～４人で対応しています。ICUも担当していますので、人手が足りないときは、病棟や外来から応援の看護師が来て対応します。

急な病気やケガで、不安なことがありましたら、なんでもおっしゃってください。

★救命救急センター（右から　副看護師長　小室　淳・谷﨑　明子・神谷　千絵・看護師長　板倉 千栄）

プロジェクトM project

新しいバイオ医薬品を開発し、膵がんを撲滅する！

── 浦野　健の研究とバイオベンチャー ──

長崎大学大学院に入った浦野健（うらの たけし）は、腫瘍医学の珠玖洋（しく ひろし）教授（当時）から指導を受けた。珠玖教授は、免疫・抗体研究やがん遺伝子・がん抑制遺伝子研究のさきがけであり、浦野は弟子として大いに薫陶を受け、この師から分子生物学的手技や抗体作製の方法などを体得していった。

3 話 連 載　第2話

抗体の可能性

外科医から研究者へ

浦野は、研修医時代から外科医として、「膵がん」の手術を数多く行った。膵臓はお腹の深く、背中側にある。がんのできた場所にもよるが、膵がんを取り除くには、胃の一部、十二指腸、小腸、胆管（肝臓の出口のところ）も切除する、非常に大きな手術を行わなくてはならなかった。患者には体の負担が大きいうえ、膵臓を全部とった場合、インシュリンを打ち続けなければならない。「特に高齢者の場合、大きな手術をして余命3ヶ月が6ヶ月に延びたとしても、その後寝たきりになり、結局命を救えないのなら、その治療の意味はあるのだろうか」と自問する日々が続いた。「膵がんを薬剤で治せるといいな。もっとがんのことを知り、自分で膵がんに効く薬剤や抗体薬を開発できれば、もっと多くの命が救えるはずだ」。

がんは、１個の正常細胞に遺伝子の変異がいくつか積み重なっておこる病気で、「炎症」を母体としてできることも多い。がん細胞がどのようにして発生するのか？どうやって転移するようになるのか？もっと勉強しなければ、もっと研究しなければ。膵がんも、抗体で炎症を抑えることができれば、進展が遅くなる可能性は十分にある。内面から沸き起こる強い気持ちが、彼をがん研究と抗体研究へ駆り立てていった。

ハワイよりカワイイ！？

長崎大学で外科医として研修を始めた１年目、入局した４月からほぼ毎日大学、夜は当直という生活でずーっと休みなく働いていた。浦野ははじめて１週間の夏休みがもらえた。ハワイへ旅行に行くことにした。せっかくの夏休みに呼び出されたくなかったからだ。準備を済ませ、出発の前日に、朝食を取ろうと大学生時代に行きつけだった近くの喫茶店を訪れた。どうやら開店前のようだ。店の中で掃除していた女性に尋ねると、その人はさっと振り向いて、「まだ開いていないので、すこししてまた来てくださいね。」と答えた。はじけるような笑顔が目に飛び込んできた。「この人だ！」

彼はすぐにハワイ旅行をキャンセルし、この喫茶店に１週間毎日通いつめた。最初は警戒モードだった彼女も、店のマスターの「浦野さん、いい人だから」の一言と彼の真剣さに心を動かされた。それから遠距離や周囲の反対など様々な困難があったが、二人は揺るぎない絆を育んでいった。やがて、１０年の時が流れ、研究員としてアメリカ･タフツ大学に招聘された彼は、「日本に戻ってくるつもりはない、一緒に行ってほしい」とプロポーズした。彼女の気持ちは決まっていた。さすがにアメリカに一人で行かせるわけにはいかないと周囲の反対も祝福に変わり、晴れて二人はアメリカへ旅立った。

タフツ大学

タフツ大学のあるボストンとその近郊には、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学（MIT）など74もの大学がある。学生の街である。大学以外大きな企業がないため、日本人比率も少ない。英語を習得するため、浦野はあえて日本人がいない研究室を選び、分子生物学の研究室で昼夜なく集中してがんと抗体の研究をした。日本で小学校の教員をしていた妻もボストン日本人学校の教員の職を得て、生活は楽しく充実していた。

抗体療法

1980年代にはすでに、抗体療法は開発されていた。抗体を体内に入れてがん細胞を狙い撃ちする治療だ。抗体は、免疫細胞の一つであるB細胞が作る。抗体治療の黎明期にはがん細胞を攻撃する抗体はマウスを使って作っていた。これらの抗体は異種のタンパク質であるため、ヒトに投与すると拒絶反応が起こった。このため、抗体療法は長らく行われなくなってしまった。しかし、浦野は抗体の持つ可能性を信じ、研究を続けていた。

その後、分子生物学の発展とともに拒絶反応を解決する技術が開発されると、抗体は様々な病気に有効であるということがわかり、抗体療法は、再び注目を浴び始めた。

タフツ大学研究員時代

（次回予告）

アメリカでがん研究と抗体作製に没頭する浦野。その成果はいつ花開くのか。乞うご期待！

私のここだけの話

「コンケン大学」

小児科　竹谷（たけたに）　健（たけし）

コンケン大学をご存知ですか。タイの東北部にある学生数4万人、職員数1万人で23学部から構成されている大きな大学です。人数だけでなくその規模や施設も巨大で、敷地が全長7kmもの長さがあり、構内には学生寮だけでなくスーパーマーケットや警察の派出所、寺院などがあり、大学構内が一つの町のようです。

腫瘍・血液内科の前教授である、鈴宮淳司先生が始められたコンケン大学との国際交流を2012年から毎年、島根大学だけでなく他の大学や病院の先生方と一緒に訪れて国際交流を行っています。

最もお伝えしたいことは、「おもてなし」です。日本でも昨年のラグビーW杯やオリンピックに向けてのおもてなしが海外から称賛されていますが、タイの方々のおもてなしは日本以上だと思います。全く義務感を感じずに常に笑顔で対応して頂き、こちらが考える時間も与えて頂けるため、心が洗われる気持ちになります。言葉ではうまく伝えることができませんので、ぜひ時間があればタイに行かれることをお勧めします。

留学生の国自慢

免疫学講座
カマルディン
イルナ　ディヤナ
カルティカ
さん

今回はインドネシアの イルナさんに母国について紹介していただきました。

こんにちは。インドネシアから来たイルナ・ディヤナです。インドネシアは正式には、インドネシア共和国といい、インド洋と太平洋の間にある東南アジアにあります。島国としては世界で最も大きく、17,000以上の島があります。土地の面積では、世界14位、土地と海洋面積を合わせると7位です。2億6千7百万を超える世界第4位の人口を擁し、イスラム教徒が大多数を占める国としても知られています。

インドネシアの魅力はなんといっても自然と文化です。インドネシアの土地の57%にわたる熱帯雨林では、自然の生態系がよく保存されており、スマトラ、カリマンタンの森のオランウータンの野生生活保護区などは、大変人気のある観光地です。旧跡ボロブドゥール、プランバナン寺院は、伝統的な祭り文化もつトラジャ、バリと同様、旅行の目的地になっています。

私のふるさとは、南スラウェシ州の州都マッカサルです。インドネシアで5番目に大きな都市です。マッカサルは東インドネシアの玄関口だけではなく、インドネシア東西の中心地です。

マッカサルにはいくつかの伝統的な料理があり、最も有名なものは「コトマカッサル」です。これはモツ（牛の脳、タン、腸など）にナッツとスパイスを挽いて味付けするシチューです。「コンロリブ」もマッカサルの伝統的な料理の一つです。インドネシアにはほかにもたくさんの伝統的な料理があります。どうぞインドネシアを訪れてすばらしい体験をしてください。

ニュース NEWS & トピックス TOPICS

島大SCOP 見事三度目V！

クリニカルスキルアップセンター長　狩野（かりの）　賢二（けんじ）

日本救急医学会主催による全国医学生心肺蘇生選手権大会が2015年から毎年開催されています。島根大学医学部の学生は、5年連続で中国四国ブロックを勝ち抜いて全国大会へ出場しています。2019年度の第五回大会は、3度目の総合優勝となり他大学から練習試合の申し込みがありました。そこで、2020年6月6日（土）、7日（日）に「全国医学生BLS練習試合inしまね（仮）」を開催することと致しました。今後とも活躍を期待します。

イベントなどのお知らせ

島大病院　ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。
当院に来院される患者さんや一般市民の方の健康づくりにすこしでもお役立ていただきたいとの思いから、健康や医療に関するミニ講座を定期的に開催しています。予約不要で途中参加・退出も自由です。どうぞお気軽にご参加ください。
実施内容は下記のとおりです。

対　象　患者さんほか一般市民　**場　所**　外来1階 外来待合ホール

時　間　11:00～11:30

回数	月日	担当	講師	テーマ
第304回	4月 2日(木)	小児科	伊藤　晃崇	病気になってからの健康話
第305回	4月 9日(木)	消化器外科・肝・胆・膵外科	林　彦多	肝切除の適応と工夫について
第306回	4月15日(水)	心臓血管外科	和田　浩巳	小さなキズでできる大動脈瘤手術
第307回	4月23日(木)	放射線治療科	玉置　幸久	未定
第308回	4月30日(木)	皮膚科	金子　栄	アトピー性皮膚炎の最新治療(仮)
第309回	5月 7日(木)	小児外科	未定	未定
第310回	5月14日(木)	消化器内科	未定	未定
第311回	5月21日(木)	救命救急センター	岩下　義明	救命センターってどんなとこ?
第312回	5月28日(木)	緩和ケアセンター	未定	未定
第313回	6月 4日(木)	肝臓内科	矢崎　友隆	やっぱり気になるC型肝炎のおはなし
第314回	6月11日(木)	泌尿器科	未定	未定
第315回	6月18日(木)	臨床遺伝診療部	未定	未定
第316回	6月25日(木)	産科・婦人科	佐藤　絵美	プレコンセプションケア　妊娠前に考えておきたいこと

病院ボランティアコンサート開催予定

開催場所：附属病院1階外来待合ホール　開催時間：19時から

- **5月15日(金)**　出雲邦舞会
- **5月29日(金)**　出雲交響吹奏楽団 ー縁ー
- **6月 5日(金)**　島根大学 エレクトーン&ピアノサークル COLORS
- **6月19日(金)**　女性コーラス アルページュ

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定（出雲ケーブルビジョン）

令和2年4月放送

放射線部　副診療放射線技師長　麻生　弘哉
放送内容：「最新のMRIを導入しました」

家庭における新型コロナウイルス感染症対策

薬剤部 准教授・副薬剤部長　矢野（やの）　貴久（たかひさ）

現在、新型コロナウイルス感染症が世界的大流行しており、不要不急の外出を控えることや人混みを避けることも求められています。家庭における感染症対策として重要なポイントをいくつか挙げます。

●手洗いとマスク

感染症対策では、新型コロナウイルスなどの病原体を体内に入れないことが一番大切で、手洗いやマスクは、感染の予防にとても効果的です。マスクや咳エチケットは、家族や周囲に感染を広げないことにも役立ちます。

●換気や食事、タオルや清掃

もし、自身や家族に風邪のような症状がみられた場合には、まずは自宅にて安静にし療養することが大事ですが、状態に応じて、帰国者・接触者相談センターに相談してください。また、**症状のある人がマスクをつけること**や、**可能であれば他の家族とは別の部屋で過ごすこと、同じ部屋では2～3メートル以上の距離をとること、定期的に換気すること**を心がけてください。**食事も別々が良いですが、一緒にとる必要がある場合には、向かい合わないようにしてください。**家族全員がこまめな手洗いを心がけ、一方で、**タオルの共用は避けてください。**ドアノブなど家族全員が触る場所は、頻繁にアルコール消毒液や、0.05%次亜塩素酸ナトリウム消毒液（市販の家庭用塩素系漂白剤（5%）を100倍にうすめて作製可）を用いて消毒し、消毒液がなければ、水拭き後に乾いた布で拭き取っても良いでしょう。洗濯や食器洗浄はいつも通りで問題ありませんが、80℃・10分間の熱水消毒も有効です。

しまだい病院のキラ☆めき！

島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介するコーナーです。皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、仕事に取り組んでいます。

卒後臨床研修センター　初期研修医　木下（きのした） 泰仁（やすひと）

この出雲の地に住んで、日々医師としての仕事の難しさを実感しながらさまざまな診療科で経験を積ませていただいています。

また、今は、仕事を始めてから人にわかりやすく伝えることの難しさも実感しており、どのようにすれば丁寧に、もれなく伝達できるのか勉強中です。

今後は医師としてのスキルも磨きつつ、人としての深みも深めていけたらと思っています。

A病棟４階　看護師　内村（うちむら） 優子（ゆうこ）

入職し１年が経とうとしています。A4病棟は糖尿病の患者さんが多く、病気とうまく付き合いながら生活していけるよう糖尿病指導を行っています。先輩方のご指導を受けながら技術を習得し、日々成長できるように励んでいます。

休日は旅行をしたり大学の同期と遊んだりしてリフレッシュしています。これからも患者さんやご家族が安心して入院生活を送ることができるようサポートしていきたいです。

MEセンター　臨床工学技士　崎山（さきやま） 貴也（たかや）

はいさい、沖縄県出身、臨床工学技士の崎山です。

高校卒業後、沖縄から離れて９年目となりました。沖縄のおススメの場所は「はての浜」です！

私は、ペースメーカーや植込み型除細動器(ICD)の植込み手術から退院後の外来で患者様と関わっています。植込み手術前は辛そうだった患者さんが外来で元気に通院して来られる姿を見ることで嬉しく思っています。

今後も患者さんには、充実した日常生活を送って頂けるように日々精進していきます。

編集後記

今回は救急部門の特集です。日常は順調なことばかりではなく、急な体調不良やケガなどで誰もがお世話になる可能性があります。島根大学病院は救急車・ドクターカー・ドクヘリ・防災ヘリなどの受け入れ態勢も万全です。

「人を助けたい」「命を救いたい」

ここには、そんな優しい思いに溢れたヒーロー／ヒロインがたくさんいます。

【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

についてのお問い合わせ先

（このＱＲコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます↑）

医学部総務課　企画調査係　広報担当

☎0853-20-2019

mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/